

報道関係各位

株式会社オリエンタルコンサルタンツ

令和6年能登半島地震における能登町への支援活動 (スマートフォンアプリ: SOCOCA の活用)

～日本アセットマネジメント協会の活動を通じた地震による土木インフラの損傷把握～

令和6年能登半島地震で被災された皆さまには、心よりお見舞い申し上げます。

このたび、株式会社オリエンタルコンサルタンツは、一般社団法人日本アセットマネジメント協会（以下、JAAM）と石川県能登町と締結した「社会インフラのアセットマネジメントに関する協定書（令和3年11月30日）」に基づき、発災直後に能登町長様から協力要請を受け、被災地の現地調査支援を行いました。現地調査支援は、JAAM 関係者がリレー形式で現地に入り、当社は1月7日～14日、先遣隊として能登町職員と一緒に被災状況の把握を行いました。被災状況の把握は、複数のスマートフォンで同時に記録が可能であり、かつ JAAM 関係者及び能登町関係職員がリアルタイムに情報共有が可能である「スマートフォンを用いた道路変状記録アプリ: SOCOCA」（当社グループの事業会社である株式会社リサーチアンドソリューションが開発）を活用しました。

SOCOCA は、スマートフォンを活用し被災箇所の写真を撮影するだけで位置情報が取得でき、損傷状況をプルダウン形式で選択、地図上に対応状況の色分けフラグ表示が可能です。更に、損傷諸元・位置図・現地写真からなる帳票出力が可能であり、多様な関係者との情報共有には有効なツールとなりました。（2/11 時点で368件登録）



図1 能登半島地震の被災状況をリレー形式で把握するために使用した SOCOCA

■JAAM 要請対応の時系列整理

1月1日 16:10	地震発生、最大震度7
1月2日	JAAM より支援要請
1月7日	先遣隊として JAAM 理事他と当社3名が能登町入りし、支援を開始
1月11日	JAAM 1班として3名が能登町入りし、先遣隊と交代
1月14日	以降 JAAM 関係者がリレー形式で引継ぎ
1月29日	JAAM 関係者がリレー形式終了
2月15日	令和6年能登半島地震、JAAM 調査団・緊急報告会

■SOCOCA活用の経緯と対応

先遣隊として当社が現地入りするにあたり、当社内だけでなく、能登町職員と現地被災状況を随時共有できるツールが必要であると考え、これまで道路巡回点検等に活用していた SOCOCA を現地被災調査記録用に即時に改良しました。活用の経緯と対応の概要は以下のとおりです。

- ・緊急事態で現場対応の省力化を図るために入力項目は最小限とすることとし、入力対象の分類（土工、橋梁、トンネル等）、被災度（大・中・小、通行可能の程度で使い分け）、メモ（気づき等）として、後は位置情報と写真を記録できる仕様としました。
- ・土地勘の無い地区へ入ることから、国道や県道と町道の区別がわからないことが想定されたため、全国道路施設点検データベース（xROAD）から能登町の橋梁点検情報をダウンロードし、橋梁位置と橋梁概要を予め SOCOCA へ登録しました。能登町の管理橋梁が図示されることにより、町道を事前確認することが可能となりました。
- ・先遣隊により能登町職員へ SOCOCA ライセンスを提供した後、職員の要望を受けて入力項目をカスタマイズして、職員が管理しやすいように修正を行いました。能登町職員は、SOCOCA から出力したレポートを用いて TEC-FORCE 等へ情報共有するなど効果的に活用されました（職員から意見として、写真をエクセルやワードに貼る手間削減だけでも効果は大きい）。
- ・第2班以降の JAAM 関係各社も、当社の SOCOCA を活用することを協議にて決定し、1月29日にリレー形式支援が終了するまで、共有ツールとして継続利用されました。
- ・JAAM 支援が終了後も、能登町職員による情報共有ツールとして、活用を継続しているところです。

■今後の展開

これまで SOCOCA は、日常点検等の維持管理の情報共有ツールとして活用されてきました。しかし、今回の活動を通じて災害時における複数機関等との情報共有ツールとしての有効性が改めて確認できました。今後は、通常時や災害時の土木インフラの状態の情報共有ツールとして、道路管理者とともに活用展開を推進してまいります。

■問合せ先

- 株式会社オリエンタルコンサルタンツ 統括本部：伊藤、丸山、門司

E-mail:webmaster@oriconsul.com TEL:03-6311-7551 URL : <https://www.oriconsul.com/>